EMIU Group 4
実現性（Feasibility）

2026-10-31

辰己丈夫



G4: 評価手法の妥当性の検証

- G1およびG2において開発した評価手法を基に問題セットを作成し、模擬試験を実施することによってその妥当性を検証する。
- 模試の日程決定、告知など（webサイト）
- TAOで用いるID＆パスワード
  - 発行システムの作成と運用
  - TAOへの投入
- アンケートの作成
- メンバー3名：辰己、中野、谷

全国学力・学習状況調査（悉皆調査）

CBTでの実施



G4: 評価手法の妥当性の検証

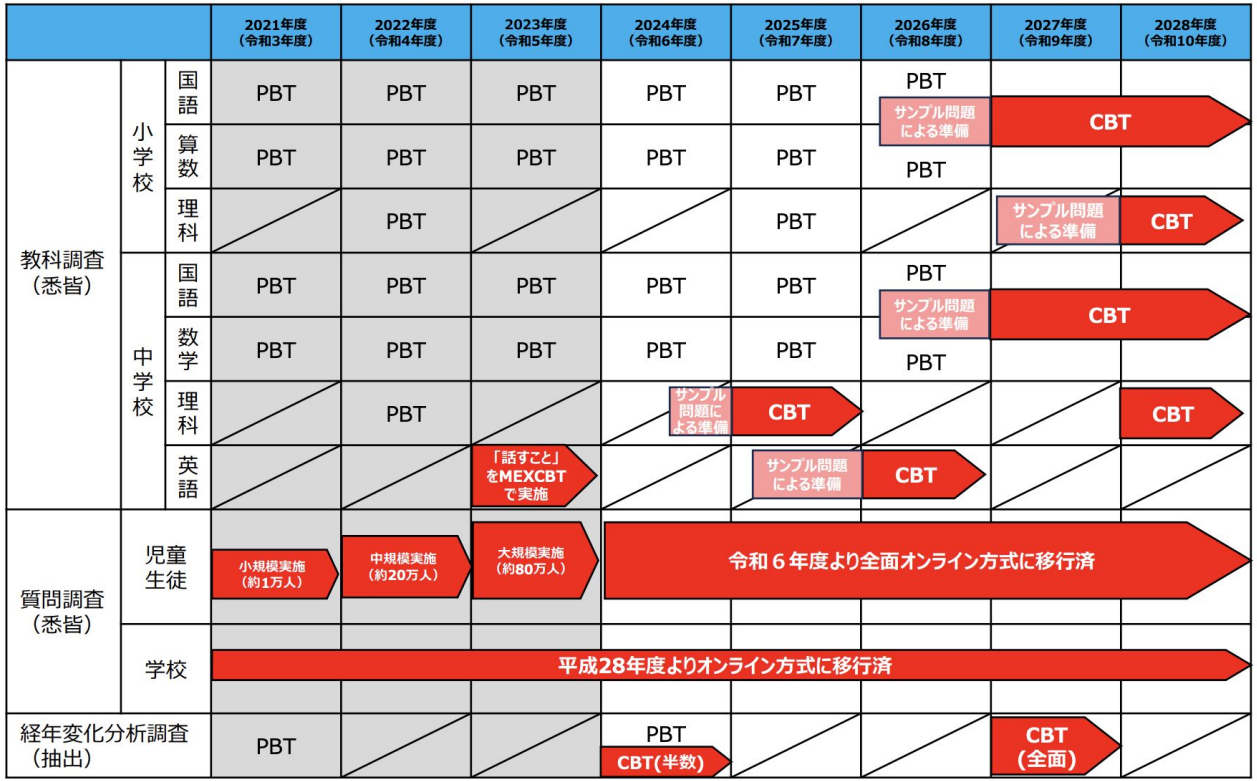
- 他の試験はどうなっているのか？の調査
- 小学校・中学校で実施されている全国学習状況調査（悉皆調査）
  - CBTが取り入れられつつある

全国学力・学習状況調査（悉皆調査）CBTでの実施

- 義務教育の機会均等とその水準の維持・向上の観点から、
  - 全国的な児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る
  - 学校における個々の児童生徒への学習指導や学習状況の改善・充実等に役立てる
  - そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

令和7年度以降の全国学力・学習状況調査（悉皆調査）CBTでの実施について【概要】（令和6年9月改定）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1421443_00005.htm

(参考)今後のCBT化の工程表（案）



※調査設計や出題、結果返却については、全国学力・学習状況調査の目的を今後より確実に達成する観点から、不断の見直しを続けていく。

令和7年度以降の全国学力・学習状況調査（悉皆調査）CBTでの実施について【概要】（令和6年9月改定）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1421443_00005.htm

CBT導入後のIRT分析に関する試行・検証について

IRT分析に関する調査研究事業について

事業名：全国学力・学習状況調査のCBT化に向けた試行・検証

D事業：悉皆調査へのCBT導入後のIRT分析に関する試行・検証

期間　：令和８年１～３月

<背景・目的>

全国学力・学習状況調査のCBT化に伴い、悉皆調査においてもIRT（項目反応理論）を用いた分析を安定的に実施することが求められる。
約200万人規模の調査データを扱う悉皆調査では、限られた期間内に分析を完了し、調査結果を学校等に返却する必要がある。正確かつ迅速な分析・結果返却に資するため、IRT分析の実施に必要なデータの加工・分析手順を整理するとともに、分析環境の構築や大規模データの処理、分析方法等について検証を行った。

<調査研究結果の概要>

① 調査データの整形からIRT分析までの手順の検証

採点後の調査データをIRT分析に利用できる形式へ加工する方法について検証するとともに、複数のソフトウェアを用いた分析手順を整理した。具体的には、各ソフトウェアにおいて、データの整形から問題の特性や児童生徒の学力の推定に至るまでの一連の分析手順を確認するとともに、データ形式や設定方法等を整理し、分析の実施に必要な手順を取りまとめた。

② 悉皆調査におけるIRT分析の実施環境及び大規模データ処理の検証

悉皆調査のデータの機微性を踏まえ、外部ネットワークから分離されたオフライン環境下での分析方法や、異なる端末で同一の分析環境を再現する方法について検証した。また、約104万件の模擬データを用いて、大規模データの分析に要する時間等を検証した。その結果、オフライン環境下でIRT分析を実施できることを確認した。また、約104万件の模擬データについて、本検証の条件下では各ソフトウェアで約12～40分程度で分析を実施できることを確認した。

③調査データを用いたIRT分析の検証

約5,200件の調査データを用いてIRT分析を実施し、問題の特性や児童生徒の学力の推定結果、分析に要する時間等を比較・検証した。その結果、各ソフトウェアでおおむね整合的な分析結果が得られることを確認した。また、全問正答・全問誤答の受検者に対する推定結果など、差異が見られた一部の結果についても、推定方法や分析条件等に関する留意事項を整理した。

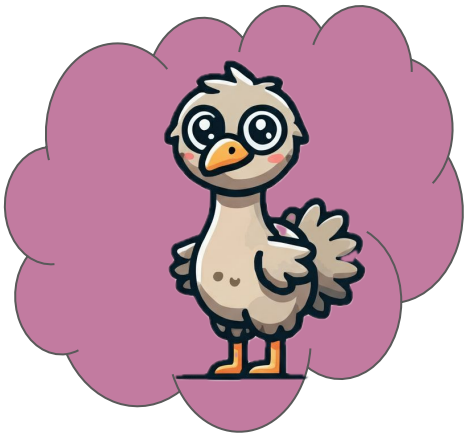
<今後に向けた整理>

本検証を通じて、悉皆調査におけるIRT分析の実施手順や大規模データの処理に関する手法を整理することができた。今後の安定的な調査の実施に向けては、分析結果の正確性に加え、分析条件の適切な管理や、分析手順・結果の再現性の確保等が重要であることが確認された。

全国的な学力調査に関する専門家会議（令和8年度第1回）・全国的な学力調査のCBT化検討ワーキンググループ資料
https://www.mext.go.jp/content/20261028-mxt_chousa02-000050618-01.pdf

EMIU情報模試2026冬

ご案内



G4: EMIU情報模試2026冬

- 試験期間
  - 2026年12月1日（火）09:00 から 2027年1月31日（日）
- 成績確認
  - 今回の模擬試験から、受験後すぐに成績を確認できます
- 試験方法：CBTシステムTAO（オープンソース）を使用
- 受験料：無料
- 受験回数: 1回限り（統計的データの取得のため）

G4: EMIU情報模試2026冬

- 短い問題
  - 30問
  - 約30分 1問1分程度で解答。
  - 「情報Ⅰ」の基礎的な知識・理解を幅広く確認します。
- やや長めの問題
  - 2問
  - 約20分 1問10分程度で解答。
  - 読解・手順の追跡・考察を含む問題に取り組みます。

生徒にとっての3つのメリット

- 「情報Ⅰ」で学んだ力を全国規模で試せる
  - 入試で「情報」を使う生徒も、使わない生徒も、自分の到達度を確認できます。
- 受験後、すぐに結果がわかります
  - 苦手分野や次に学ぶべき内容を考えるきっかけになります。
- 大学入試を見据えた良問に挑戦できる
  - 共通テストやセンター試験の作問経験をふまえた問題に、CBT形式で挑戦できます。

受験方法

- 試験期間に受験サイトにアクセスしてください
  - URLは EMIU公式サイトにて　後日公表
- 申し込みすると、すぐに受験開始となります。
  - 試験直前に申し込んで下さい。
- 事前申し込みは不要です。



受験方法

- 試験期間に受験サイトにアクセスしてください
  - URLは EMIU公式サイトにて　後日公表
- 申し込みすると、すぐに受験開始となります。
  - 試験直前に申し込んで下さい。
- 事前申し込みは不要です。

